

令和5年度 特別養護老人ホームふるさと事業計画

【基本方針】

「団体生活の枠にとらわれず、家庭生活により近い施設生活の提供を行う」

【年間目標】

- ① 感染症や災害への対策強化
- ② ケアの内容を充実させ、利用者にとってよりよい環境を整える
- ③ 職員の介護技術・知識の向上
- ④ ご家族や地域住民の方に愛され選ばれる施設づくり
- ⑤ 悔いの残らない看取り介護の実践

【実践計画】

- ① 感染症や災害への対策強化
 - ・ 策定済みBCPの検証・理解を深めるとともに、それに沿った現場でのマニュアルを作成し定期的にシュミレーションを行い有事に備える
 - ・ すべての職員が同じレベルで感染症や災害などに対応出来るよう、知識を深め情報共有を行っていく
 - ・ 日常生活・業務を行っていくなかで、常に感染症や災害に対する危機感を持ち情報を集め、マニュアルなどに適宜反映させていく
- ② ケアの内容を充実させ、ご利用者にとってよりよい環境を整える
 - ・ ご利用者がその人らしく生活するため、個々の疾患や生活歴等の把握に努め、利用者一人一人に寄り添ったケアを提供する
 - ・ ICT機器を活用することでフロア内の情報伝達・共有を活発に行う
 - ・ 誰が行っても同じレベルのケアが提供できるよう、また「ふるさとしい」支援が出来るよう、三大介護の基本を組み込んだマニュアルを作成し実践する
 - ・ ご利用者個々の希望・能力・体調面を十分に考慮し、余暇活動の充実を図る
フロアの利用者全員を対象として行えるレクリエーションはもちろん、ご利用者個々に応じて提供出来る余暇活動を検討し、日々の生活を充実したものにする
 - ・ 言葉遣いや接遇態度等、丁寧な関わりと気持ちの込められたケアを心掛け、ご利用者が安心して日々を過ごせる環境を作る
 - ・ ヒヤリハット報告を有効活用し、危険予測を行うことで事故を防ぎご利用者が安全に生活出来る環境を整える
 - ・ 施設内の臭いや汚れに職員一人一人が気付き、対応することでご利用者が気持ちよく生活できる環境を整える
 - ・ 職員が気持ちにゆとりを持ちケアに集中出来るよう、人員の確保・ハード面の整備を行う

③ 職員介護技術向上とキャリアの構築

- ・専門的なケアが必要なご利用者に対し、いかなる時も落ち着いた行動ができるよう必要な知識を深める
- ・必要な知識を身につけるため積極的に研修に参加できるよう職員体制を整える
- ・三大介護の技術を高め、ご利用者一人一人の日々の身体の状態を把握し、変化に気づける目を養う
- ・すべての職員が同じレベルでケアを提供出来るよう、マニュアル見直し徹底する
- ・職員同士意見を言い合い、切磋琢磨できる環境作りを行う
- ・眠りスキャン、インカムなどの ICT 機器を活用することで業務の効率化を図る
- ・リーダーとなる職員の人材育成を行う

④ ご家族や地域住民の方に愛され選ばれる施設づくり

- ・その時々状況に応じ、利用者と家族が交流出来るよう対応方法を検討する
- ・利用者の様子を各種 SNS(Instagram・YouTube・Facebook・ブログ)を利用し発信する
- ・家族との信頼関係を築くため、相手に応じた連絡方法をしっかり把握しコミュニケーションをとっていく
- ・情報をしっかり共有することで家族と職員が同じ気持ちで利用者のケアにあたる
- ・「利用したい」と思っただけの「ふるさとらしいケア」を常に考え、提供していく
- ・地域行事に参加するなど利用者の社会参加を促すとともに、地域の方に施設に対する理解を深めていただく
- ・災害時福祉避難所としての、マニュアルを作成し、有事に備える

⑥ チームで行う看取り介護の実践

- ・可能な限り利用者・家族の望む最期を迎えられるよう、また、その方らしい最期を迎えられるよう、定期的に意向確認を行っていく
- ・ご利用者に気持ちよく生活して頂けるよう、身体面の清潔を保つことはもちろん家族と相談しながら居室環境も整えていく
- ・最期を迎えて頂くに際し、ご利用者・ご家族にしっかり寄り添い「ふるさとでよかった」と思っただけのケアを提供する
- ・都度振り返りをしっかり行い、そこで得た情報や知識を次の支援にしっかり活かす